

早期英語学習に関する中学生へのアンケートおよび効果の分析(3)

－ 高校生と比較して －

内 藤 徹

(2007年 1 月31日受理)

Analysis on the Questionnaire and the Effects of Early English Learning on Junior High School Students -A Comparative Study with Senior High School Students -

NAITO, Toru

キーワード (key words)

早期英語教育 (early English education)、学習経験 (learning experience)、
学習者への影響 (influence to learners)

1. はじめに

近年、早期の英語学習への関心が高まり、いろいろな議論がなされている。小学校またはそれ以前から英語学習をはじめた方が効果があるとの意見があれば、日本語学習が充分になされ、より抽象的な思考や分析ができるようになってから行った方がよいとの意見もある [大津 (2004) 等]。2002年 4 月より、小学校において「総合的な学習の時間」が行われ、国際理解教育の一環として英語の活動が行われているところが多い。文部科学省 (2001) は、『小学校英語活動実践の手引』の中で、公立小学校における英語活動のねらいを「言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である」(p.3) としている。

高校生を対象とした内藤 (2004)、内藤 (2005) に続き、今回は中学生を対象に、中学入学以前に早期英語学習をしたことのある「英語学習経験者」(以下「経験者」) と「英語学習未経験者」(以下「未経験者」) についてアンケートを行い、実際の

成績等とも比較することにより、その傾向と影響の有無等について分析を行った。

2. アンケート調査・分析

(1) 被験者

中学校 1 年生 133名、2 年生 148名、
3 年生 124名：合計405名

(2) 分析方法 [Hatch (1982)、内藤 (1997)]

χ^2 -test = χ^2 検定 (アンケート等の数値の有意差検定) Tables 1-9

ANOVA → Ryan's Method = 分散分析 →
ライアンの法 (いくつかの平均点の有意差検定) Tables 10-12

有意水準は 5%、1%、0.1% の 3 つの水準

(3) 結果と考察

Table 1 中学入学以前に英語を学習したことがありますか (数字は百分率: 以下%)

| | 1年 | 2年 | 3年 | [以下学習は英語学習] 横 p<1.0 (合計は100%である) 縦 ***p<0.001 |
|----|-----|-----|----|---|
| ある | 100 | 100 | 94 | |
| ない | 0 | 0 | 6 | |

全体 **p<0.002

☆「経験者」

Table 2 学習の期間は何年間でしたか (%)

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年以上 | 1~2年 |
|-----|----|----|----|----|------|------|
| 1年生 | 26 | 55 | 3 | 6 | 10 | 81 |
| 2年生 | 21 | 59 | 8 | 7 | 5 | 80 |
| 3年生 | 32 | 58 | 7 | 0 | 3 | 90 |

Table 3 学習の手段は主にどれでしたか (%)

| | 学 校 | 学習塾 | 英語教材(家) | 家庭教師 | TV, Radio | 他 |
|-----|------|------|---------|------|-----------|---|
| 1年生 | 78 | 17 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| 2年生 | 61 | 33 | 8 | 2 | 4 | 0 |
| 3年生 | 58 | 36 | 0 | 6 | 0 | 0 |
| 平 均 | 65.7 | 28.7 | 4.3 | 2.6 | 1.3 | 0 |

Table 4 学習の頻度はどれでしたか (%)

| | 毎日 | 週3以上 | 週2 | 週1 | 月2 | 月1 | その他 |
|-----|----|------|------|------|----|----|-----|
| 1年生 | 2 | 10 | 26 | 55 | 6 | 1 | 0 |
| 2年生 | 0 | 5 | 24 | 66 | 3 | 2 | 0 |
| 3年生 | 0 | 3 | 24 | 73 | 0 | 0 | 0 |
| 平 均 | | | 24.7 | 64.7 | | | |

Table 5 中学入学後、それ以前の学習が役に立ったと思いますか (%)

| | 大変役立つ | 役立つ | どちらとも言えない | 役立つ | 全然役立つ |
|-----|-------|------|-----------|-----|-------|
| 1年生 | 19 | 13 | 45 | 16 | 7 |
| 2年生 | 3 | 37 | 21 | 34 | 5 |
| 3年生 | 6 | 39 | 29 | 10 | 16 |
| 平 均 | 39.0 | 31.7 | 29.3 | | |

役立つ-役立つ
p<0.3
p<1.0
*p<0.03

「(大変)役に立った」と「(全然)役に立たなかった」には有意差なし (p<0.3)

Table 6 役に立ったと思う場合、主にどのスキルに効果があったと思いますか。

(役に立ったという中での%)

| | listening | speaking | reading | writing | all skills |
|-----|-----------|----------|---------|---------|------------|
| 1年生 | 15 | 30 | 26 | 15 | 14 |
| 2年生 | 33 | 22 | 22 | 6 | 17 |
| 3年生 | 24 | 14 | 10 | 48 | 4 |
| 平 均 | 24.0 | 22.0 | 19.3 | 23.0 | 11.7 |

Table 7 ずっと英語が好きですか (%)

| | 大変好き | 好き | 普通 | 嫌い | 大変嫌い |
|------|------|----|------|------|------|
| 1 年生 | 10 | 6 | 58 | 10 | 16 |
| 2 年生 | 3 | 36 | 33 | 22 | 6 |
| 3 年生 | 12 | 32 | 37 | 16 | 3 |
| 平 均 | 33.0 | | 42.7 | 24.3 | |

好き - 嫌い
 $p < 0.2$
 $p < 0.2$
 $** p < 0.002$

「(大変) 好き」と「(大変) 嫌い」には有意差なし ($p < 0.3$)

☆「未経験者」

Table 8 中学入学後、それ以前に学習していた方がよかったですか (%)

| | 非常に思う | 思う | どちらとも言えない | 思わない | 全然思わない |
|------|-------|----|-----------|------|--------|
| 1 年生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 年生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 年生 | 25 | 25 | 0 | 25 | 25 |
| 平 均 | 50.0 | | 0 | 50.0 | |

「(非常に) 思う」と「(全然) 思わない」には有意差なし ($p < 1.0$)

Table 9 ずっと英語が好きですか (%)

| | 大変好き | 好き | 普通 | 嫌い | 大変嫌い |
|------|------|----|----|------|------|
| 1 年生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 年生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 年生 | 12 | 38 | 0 | 12 | 38 |
| 平 均 | 50.0 | | 0 | 50.0 | |

「(大変) 好き」と「(大変) 嫌い」には、有意差なし ($p < 1.0$)

Table 10

| | | | | | | |
|----------------------------------|------|------|------|------|---|-------|
| 1 年生 4 classes | | | | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 以上 | 無 | 年数・有無 |
| 69.0 | 61.6 | 56.0 | 93.5 | 94.0 | | Mean |
| 21.0 | 18.9 | 15.6 | 8.9 | 10.8 | | SD |
| 28 | 72 | 4 | 8 | 12 | 0 | n |
| 22 | 58 | 3 | 7 | 10 | 0 | 人数% |
| ANOVA *** $p < 0.001$ n = 124 | | | | | | 水準 |

Ryan's Method ↓

*** $p < 0.001$

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | * | | |
| 5 | * | * | | |

**p<0.01

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | |
| 3 | * | * | | |
| 4 | * | * | | |
| 5 | * | * | | |

*p<0.05

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | |
| 3 | * | * | | |
| 4 | * | * | | |
| 5 | * | * | | |

Table 11

| 2年生 4 classes | | | | | | |
|----------------|---------|------|------|------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5以上 | 無 | 年数・有無 |
| 43.1 | 51.2 | 49.9 | 71.5 | 88.5 | | Mean |
| 18.8 | 22.7 | 25.6 | 26.1 | 18.1 | | SD |
| 4 | 88 | 28 | 20 | 8 | 0 | n |
| 3 | 60 | 19 | 13 | 5 | 0 | 人数% |
| ANOVA n=148 | *p<0.07 | | | | | 水準 |

Ryan's Method ↓

***p<0.001

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | * | |

**p<0.01

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | * | |

*p<0.05

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | * | |
| 5 | * | * | * | |

Table 12

| 3年生 4 classes | | | | | | |
|--------------------------|------|------|------|------|------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5以上 | 無 | 年数・有無 |
| 54.8 | 62.7 | 59.5 | 60.3 | 90.0 | 50.0 | Mean |
| 18.2 | 15.7 | 20.3 | 23.2 | 11.2 | 20.9 | SD |
| 40 | 71 | 8 | 2 | 4 | 8 | n |
| 30 | 53 | 6 | 2 | 3 | 6 | 人数% |
| ANOVA **p<0.004 n=133 | | | | | | 水準 |

Ryan's Method ↓

***p<0.001

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |

**p<0.01

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | * | * | | | |
| 6 | | | | | * |

*p<0.05

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | * | * | * | | |
| 6 | | | | | * |

「経験者」は全体の98%で、1年生、2年生は各々100%であるが、3年生では94%である (Table 1)。当然のことではあるが「ある」と「ない」には0.1%水準で明確な差がある。内藤 (2005) のS高校では「経験者」が全体の57%で、1年生、2年生、3年生でそれぞれ49%、63%、60%であったのとは、かなり異なる。現在では、ほとんどの小学生に対して英語教育が行われていると言ってよいであろう。「学習の期間」は2年間で

最も多く57%、続いて1年間で26%である。従って、1～2年間でほとんどで、1年生、2年生、3年生でそれぞれ81%、80%、90%である (Table 2)。「学習の手段」は「学校」が65.7%で最も多く、続いて「学習塾」が28.7%であった (Table 3)。すなわち、約94%が学校と学習塾であり、高校生の場合とほぼ同じであるが、高校生は後者がやや多い。ただし、各項目は「主に...」ということであり、重複する部分がある。「学習の頻度」は

週1回が最も多く64.7%、週2回が24.7%である (Table 4)。従って、約90%が週1～2回の学習頻度と言える。これも、ほぼ高校生と同様の傾向である。「以前の学習が役に立ったか」については、「(大変)役に立った」と「(全然)役に立たなかった」には全体では有意差はないが、学年毎に見た場合、3年生については5%水準で有意差があり、彼らは「(大変)役に立った」と述べている (Table 5)。「役に立った有効なスキル」については、特に目立つスキルはないが、listening、writing、speaking、reading、all skills の順である (Table 6)。音声言語中心の英語学習であったとのことであるが、writing が中学生の場合23%で高校生の場合26%と早期英語学習にしては多かったと思える。ただし、この時期の writing は、綴り方や文字を写すことが多かったようである。「ずっと英語が好きですか」については、「(大変)好き」と「(大変)嫌い」には全体的に有意差はないが、3年生では1%水準で差があり「(大変)好き」が有意に多い (Table 7)。高校生では全学年において0.1%水準で有意差があったが、中学生では3年生においてのみ有意差が見られた。すなわち、3年生については「以前の学習が役に立ち」「英語が好き」と言えよう。

「未経験者」は1・2年生にはいなく、3年生に6%いるだけである (Table 1)。さて、データ上の人数は少ないが、「以前に学習していた方がよかったと思うか」については、「(非常に)思う」と「(全然)思わない」は全く同数で有意差はない (Table 8)。「ずっと英語が好きですか」についても、「(大変)好き」と「(大変)嫌い」は同数で、有意差はない (Table 9)。

さて、ここで「経験者」における年数の違いによる比較検討を行っていきたい。まず、1年生 (Table 10) では、分散分析の結果、全体では0.1%水準で有意差がある。さらに、ライアンの法によって1年間、2年間と3年間、4年間、5年間以上には1%水準で有意差がある。3年間とにも有意差がでたが、平均点から見ると4年間以上の「経験者」は有意に学力が高いと思われる。次に2年生 (Table 11) では、分散分析の結果、全体で有意差とまではいれないが差の傾向は見ら

れる。さらに、ライアンの法によって1年間、2年間、3年間と5年間以上には5%水準で有意差がある。3年間と4年間にも5%水準で有意差が見られる。総合的にみて、5年以上の「経験者」は有意に学力が高いといえよう。3年生 (Table 12) では、1年間、2年間、3年間と5年間以上に5%水準で有意差がある。また、「5年間以上の経験者」と「未経験者」間にも1%水準で有意差が見られる。まとめて言えば、1年生では「4年間以上」、2・3年生では「5年間以上」の「経験者」は成績において有意差が見られる。従って、全学年において「5年間以上の経験者」は英語の成績において、有意に学力が高いと考えられる。また、表中にはないが、「5年間以上の経験者」の「学習の手段」は全員が「学校+塾」であった。そして、全員が「以前の学習が役に立った」「英語が(大変)好き」と答えている。従って、総合的に見て「5年間以上の経験者」は英語の学習に高い興味・関心を示し学力も高いと言える。

3. おわりに

今回のアンケート調査においても、高校生の場合と同じように、「経験者」には中学入学以前の英語学習は「楽しかった」「面白かった」「分かりやすかった」「やる気がでた」など好意的な記述がかなり見られた。全学年において、高校生の場合ほどではなかったが、良い意味での動機づけを受けていたと考えられる。つまり、中学入学以前に英語を学習したことによって、たとえ英語の学習成績に反映されなくても、動機づけを受けていれば、その学習はある意味で成功したといえよう。これは、柳・高橋 (2001) の研究にも見られるし、松川 (2003) も同じようなことを述べている。また、直山 (2004) は「未知の言語の網の中を何とかぐり抜けようとする子どもたち、何とかぐり抜けた子どもたちは、ますます言語によるコミュニケーションに興味を抱き、心地よさを感じ、もっと英語を使って相手に自分の思いを伝えよう、相手のことを理解しようとするだろう。そういう態度を育てることも、小学校英語活動のねらいである。」と述べている。動機づけられた好ましい態度を育成することも、中学入学以前の英語学習の

大きな効果であろう。

さて今回、「5年間以上の学習経験者」は大きな動機づけを受け、成績においても有意に良い影響を受けていたというのは、早期英語学習経験のある高校生の場合と同じである。しかし、それ以外の中学生については、高校生（中学段階で中位）ほどの好ましい結果は得られなかった。佐藤（1999）、Takagi（2003）等によれば、中学入学以前に英語学習をしていた生徒は、真のコミュニケーション能力を身につけるのに効果的でないという理由から、教室内での英語学習に興味を示さない傾向が強いと述べている。今回の「経験者」が必ずしも現在まで英語が好きでないのは、このようなことがあるのかも知れない。また、今回の中学生の場合、全ての段階の生徒を調査対象としたことによるものとも考えられる。今後、上位、中位、下位の段階別のより詳細な調査・研究をすることによって、傾向はより明らかなものとなるであろう。

引用文献

- Hatch, E.& Farhady, H. *Research Design and Statistics for Applied Linguistics*. Newbury House Publishers, Inc. 108-122, 165-172. (1982)
- Larsen-Freeman, D. & Long, M. *An Introduction to Second Language Acquisition Research*. Longman Group Limited 114-152. (1992)
- 松川禮子『小学校英語活動を創る』2-35頁 東京：高陵社書店（2003）
- 文部科学省『小学校英語活動実践の手引』2003年10月10日 検索 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/02/010212.htm 1-16頁（2001）
- 内藤 徹『新しい 英語教育ハンドブック』東京：リーベル出版 22-30頁（1997）
- 内藤 徹「早期英語学習に関して」『鯖江高等学校紀要』No.26 19-28頁（2004）
- 内藤 徹「中学入学以前の英語学習に関するアンケートおよび効果の分析－高校生の場合」『中部地区英語教育学会紀要』第35号 47-52頁（2005）
- 直山木綿子「小学校英語活動、益あり、害なし、よって必要あり、ただし、条件つきで」『英語教育』5月号 30-32頁 東京：大修館書店（2004）
- 大津由紀夫「公立小学校での英語教育に異議あり！」『英語教育』5月号 8-11頁 東京：大修館書店（2004）
- 佐藤響子「早期英語教育から何を期待しうるか：横浜市立大学生の意識調査より」『横浜市立大学論集』50. 113-146頁（1999）
- Takagi, Akiko. "The Effects of Language Instruction at an Early Stage on Junior High School, High School, and University Students' Motivation towards Learning English." *ARELE* Vol.14,81-90. (2003)
- 柳 善和・高橋美由紀「中学入学以前の英語学習の影響：学習者による評価」『中部地区英語教育学会紀要』第31号 21-28頁（2001）